

## 真夏の韓国低山歩き ③ (2013.8.16～21)

関根 茂子

Tさんと11:25に出発する。岩場に取り付けられた鉄階段を手すりにしっかりつかまりながら下ったり登ったり緊張の連続だ。Tさんが「素晴らしい景色だよー」と見るように勧めてくれるが、見ると怖くなるから私は足元と眼の前だけをみつめて歩く。片側しか手すりがない登山道もあったが、今日は月曜なのですれ違う登山者が少なくて助かった。

時々、西に甲寺(カプサ)側に巻く平らな道が出てきてほっとする。前方に鉄階段で登る峰が見えて「あれを登ればおしまいだ」とがんばる。ところが登り着けばそこは前衛峰で本峰はまだ先だった。下ると分岐、ハングル文字の形で三佛峰は右と判断して進む。最後は鉄階段登りで12:50、岩峰の三佛峰(サンブルボン)777mに出た。

そこには、冬の霧氷の写真看板と来し方の展望図板があり、フランス人女性2人組が休んでいた。後から着いたポットを持っている私たちのお湯で4人いっしょに紅茶を飲んでひと休み。その後「下でAさんが待っているから」と2人はさっさと下山していく。私もここでのスケッチを諦めて13:15、下山を開始する。10分ほど東鶴寺溪谷への分岐から南の谷を下ると、立派な石塔が2つ建ち並ぶ大勢の人がいる平地に出る。13:35、ここが、男妹塔(オニタブ)<sup>注1)</sup>だ。

石の道を下る。ところどころ土の部分踏むと足が喜んでいる。途中の沢水を横切るところでは手拭

いを濡らしてひと息つく。この時刻に登ってくる人がいた。

14:30、往路に合流。ここでTさんは先に行き、ひとりでのんびり樹をみながら歩く。山門入口の沢では涼を取る家族連れや仲間連れが大勢遊んでいた。

朝は閉っていた案内所に立ち寄って「鶏龍山の地図が欲しい」と言うと女性が日本語で「韓国語の地図しかない」とハングルの地図を差し出してくれた。14:45冷房の効いたコンビニに戻り着く。Aさんが氷あずき(パッピンス)を食べている。私も同じものを買う。融けるのが待ち切れず、アイスコーヒーも買い求める。これが氷だけのカップに液体パックをセットで買う仕組みだ。液体パックにはコーヒブラックや砂糖入り、ジュースの類などいろいろあるようだ。このやり方はなかなか合理的で日本にも導入されるといいな。

帰りもタクシーを呼んで温泉ホテルに戻って、16:30から待望の大浴場入浴へ。お風呂は日本の公衆浴場と全く同様の造りだった。広い湯船にのんびり浸かって久し振りに銭湯気分を堪能した。

風呂上がりでもう暑い屋外に出る気分ではない。夕食は冷房のあるホテル2階のレストランにする。メニューは3種類、俗離山の下でみた小さな巻貝らしきものが入った辛い汁物をわたし、S、Aさんが、肉入り赤い辛い汁物をTさん。貝も辛いのも



観音峰



観音峰から三仏峰への縦走路



三仏峰記念撮影

苦手のYさんはおかゆを注文する。出てきた貝汁には緑色エメラルドグリーンの小さな貝の身がたくさん入っていた。食後、ホテルレストラン担当の若い男性に「これは何？」と聞くとスマートフォンで貝の写真をみせてくれた。

名前も書いてもらって注2) 帰国後、ネットで調べてみた。

毎日コンビニおにぎりと菓子パンばかりだったので、野菜と果物が無性に食べたい。Tさんが坊やに教えてもらったスーパーに果物を買いに走ってくれる。ほんと、久しぶりにリンゴを食べられてうれしかった。Tさん、ありがとう！（トマトは後からひとり分ずつチャック袋に入れて配られる。袋まで持参とはなんと用意周到なTさんでした）

## ◆20日(火) テドンサン大屯山(878m)注3)

7:00、タクシー2台分乗で大田東部バスターミナルへ。まずは、重いザックをコインロッカーへ預けるべく、在りかを探す。次は入れ方、集中管理の機械があって、使用するロッカー番号を登録しないとお金を入れても鍵が回らない仕組みになっていた。それが分からずに困っていると親切な男性が機械のボタンを操作してくれた。身軽になってこれから朝御飯をと思っていたら、大屯山登山口に直接行くバスはなく、クムサン錦山で乗換とのこと、聞けば07:35発錦山行きバスがあるというので、即乗車となる。

Sさんによると錦山は忠清南道(チュンチョンナムド)の南東端に位置する高原盆地で寒暑の差が大きい。畑地が水田より多く、とくにこの地の砂壤土はチョウセンニンジンの生育に適し、「錦山参」として有名とのこと。



男妹塔

確かに、車窓には黒い寒冷紗をかぶせた人参畑がそこそこに認められ、地図にも国際人参市場なる文字もあった。錦山バスターミナルに着けば直通バス08:37発が待機している。

09:00過ぎ登山口着、オフシーズンのバスターミナルは無人で売店も閉っている。それでもロープウェイ乗り場に向かう大通りには食堂が軒を並べ、盛んに呼びこむ店もあった。その店で冷麺を食べるとこれが細麺で冷たくおいしかった。食後はホットコーヒーのサービスもあり、コーヒーの紙コップを手にロープウェイ乗り場までゆるゆる上る。

09:55~10:00閑散とした乗り場に着く(ロープウェイは全長927mを6分で20分間隔運行)。ガラガラのゴンドラの人となる。11時の下りに乗ることに決める。足が不調のAさんは手近の展望台で待機とのこと。

4人で階段を登り始めるが、足の速いY・S組にたちまち置いていかれた。少し行くと金剛雲橋(クムガンクルムダリ)が出てくる。足元をみれば高度感はずばりだが頑丈な吊り橋なのでさほどの怖さはなかった。渡った先の展望台から前方に雲の梯子ともいべき赤い金属階段が立ちあがっているのが望める。ここで残り持ち時間は40分間、私の鈍足では登頂は無理、あの階段も怖いので、ここでスケッチに専念しよう。岩峰に松の山水画は難しく手こずっていると、Tさんが戻ってきた。少し先まで行ってはみたが、百歳のお父さんを見ているので「自分に何かあったら・・・」と自重したとのことだ。

下りにも時間がかかる私もスケッチは早めに切り上げて階段を下っていると、山頂まで上がった



男妹塔の由来説明版

健脚の2人に追いつかれてしまった。さすがに早い! 前は雨で登れなかったSさんは満足の様子だ。帰路のロープウェイの谷間にはモミジの木も多く、この山は紅葉の時期は大賑わいになるのだろう。手前のお店でまたまたメロンアイスバーを買って舐めながら11:25、無人のバスターミナル着。そのうち年配の男性が一人現れ、彼は日本人で大阪から韓国の山を歩き回っているとのことだった。バスが来るまで大屯山の山並みをスケッチする。発時刻が来てもバスは来ないので絵はそれなりに完成できた。

11:47遅れてきたバスに乗り込み、錦山12:17着、12:25発。帰りのバス車窓から街路樹を眺めているとユリノキ(ハンテンボク)の並木を発見、わが国で街路樹にユリノキを見たのは長野から志賀高原へ行くバスからだけだ。

大田13:13着。昼はチヂミを食べたくてバスターミナルの外を探しあるくが、見つけた店は2件とも営業していなかった。しかたなくフードモールでミニうどんとサラダセットを食べる。これがボリュームたっぷり、サラダと思った皿の下には御飯が隠れていたのだった。

14:40発仁川空港行き急行バスに乗車、18:00仁川空港着、迎え車でスカイホテル18:30着。今夜は韓国最後の夕食だ。蔘鶏湯(삼계탕)を食べるぞとおいしいお店をフロントに紹介してもらい、荷物を部屋に置いて即出かける。

教えられた店で注文を終えて大根キムチを着にサービスの人参酒を飲んでみると、Aさんの韓国人知り合い金信根さん夫妻が入ってくる。なんと夕食

を共にして、金氏にご馳走になってしまった。話が尽きないAさんと金夫妻はホテルへ。残り4人はお土産の調達にとロツテマートへ。ショッピングカートはデポジット式でコインを入れないとつながったカート列から引き出すことができない。これなら、使用後のカートが散乱することはない。まずはお土産定番の韓国海苔を買い、次はトウモロコシ茶(オクスス)を求めて売り場を探し回る。

粒の大袋とティーバックのものを見つけて購入した。帰国後、飲んでみると香ばしいトウモロコシの香りがするお茶ができた。ノンカフェインでこれはイケル飲み物だ。

◆21日(火) 帰国

06:05送迎車ホテル発 仁川空港6:25着、済州(チェジュ)航空7C1102便。

搭乗手続き後、出国審査。書類は不要だった。機内の朝食用にキンパブをテイクアウト。海苔巻きが酢飯だったらもっとおいしいのと思うのは日本人だからかな。

8:30発、成田10:50着

5泊6日の山旅の総費用は7万円(航空券30,000円、現地宿泊費13,500円、現地交通費と夕食代20,000円)文盲の不便さを実感し、Sさんの韓国語力がなければ成り立たなかった山旅でした。

(終り)

■注記

1) **男妹塔伝説の概略**：一人の若き修行僧が、洞窟で修行を積んでいた。ある日、虎が女の子を背中に乗せて、彼の嫁にと連れて来た。二人とも好意を持ったが、兄妹として生涯を過した。死んだ後、男妹塔を建てて添わせてやった。

2) **オルゲンイ**(タスルギと呼ばれる地方もある)：淡水にすむ巻貝(キレイな水の中でしか生きられない貝)で、肝臓病や骨粗しょう症の治療や改善、胃や腸などの消化器系の改善に効果があるとされている。しかも無脂肪・高蛋白質! 日本でいうカワニナ(ホタルの幼虫の餌になる巻貝)の種類。

3) **大屯山**：蘆峰山脈の北部に属する残丘の一つで、浸食された花崗岩岩盤があらわれ、峰々に絶壁と奇岩奇石になっているが、特に頂上の王バウイ(岩)と立石台をつながる長さ81m、幅1mの金剛雲橋は欠かせない名所だ。

(ウィキペディアより)